

教育研究業績書

2021年10月29日

所属： 附属総合ミュージアム

資格： 助教

氏名： 伊永 陽子

研究分野	研究内容のキーワード
日本服飾史、服飾文化史、博物館学	平安朝服飾、童装束、禁色、歌合、伊勢物語絵、王朝文化
学位	最終学歴
博士（人文科学）	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科論文博士

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 財団法人畠山記念館 学芸員	2007年4月2010年4月	生涯教育の一環として、成人学習者や学生に向けて展示解説（約1時間）を行い、茶道文化や日本美術への理解を促した。また、講演会やワークショップをはじめとする展示に付随するイベントの運営などを行った。（各約30～60名）
2. 武庫川女子大学短期大学部 生活造形学科「服飾文化史」	2020年4月～現在	日本服飾史・西洋服飾史の古代から現代までの服飾文化が顕著に表れている事例をピックアップした講義。Google classroomを用いて意見の共有、調査学習、発展的問題発見など学習の振り返りを促した。（受講者34名）
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 財団法人畠山記念館 学芸員	2007年4月1日～2010年4月30日	収蔵品の研究・調査、収集、保存・管理をはじめ、年4回の展覧会とそれに関連するワークショップ、講演会、茶会などイベントの企画運営に携わり、展示の普及・教育の一環として来館者や地域の学校（小・中・高校・大学）に向けて展示解説や出前授業などを行った。
2. 王朝文化体感プログラム協議会（文化資源活用事業費補助金Living History（生きた歴史体感プログラム）促進事業）検討・企画委員	2020年8月～2021年9月	王朝文化体感プログラム事業（一般財団法人民族衣裳文化普及協会・三重県・明和町）の「摂関期～中世における女性の装束と空間演出の再現」において、女房装束の歴史的調査・検証、復元、事業企画を担当。
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 武庫川女子大学附属総合ミュージアム 臨時職員	2020年9月2021年3月	武庫川女子大学附属総合ミュージアム所蔵の資料に関する調査・データベース作成。
2. 武庫川女子大学附属総合ミュージアム 嘱託研究員	2020年9月2021年3月	武庫川女子大学附属総合ミュージアム所蔵の資料に関する調査・研究を行う。
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. 『平安文学と隣接諸学9 王朝文学と服飾・容飾』	共	2010年5月	河添房江編、竹林舎	河添房江・近藤好和・吉村佳子・和田早苗・伊永陽子 ほか「平安時代の童の正装」（pp.204-224）10～11世紀を中心に平安朝社会における童男の童束帯、童女の汗衫を対象に、それぞれの色彩や形状、服飾構成における特性を指摘したうえで、王朝文学にみられる表現性と美感を検討した。
2. 『住吉如慶筆 伊勢物語絵巻』	共	2019年4月	伊勢物語絵研究会編、思文閣出版	伊勢物語絵研究会（青木賜鶴子・赤澤真理・泉紀子・大口裕子・河田昌之・田中まき・山本登朗・伊永陽子）「伊勢物語絵」にみる住吉如慶の復古的服飾表現」（pp.255-267）、「人物表現一覧・

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
				服飾一覽」(pp.279-281) 江戸前期の住吉如慶筆「伊勢物語絵巻」に描かれた平安朝服飾の表現を分析・検討し、王朝復古の時勢を背景に、如慶の有職故実知識の深さ、その独創的な表現が見出された。
2 学位論文				
1.「服飾からみる平安時代の子どもの姿—童女の汗衫を中心に—」	単	2004年3月	お茶の水女子大学大学院人間文化研究科	修士(生活科学) 平安時代の宮廷社会における童女の汗衫について、文献資料と絵画資料を用いて、形状や特性、服飾構成を明らかにし、王朝文学における晴と褻の場の装いを取り上げ、その美感について考察した。
2.「平安王朝の童装束—王朝服飾の成立と展開—」	単	2019年9月	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科	博士(人文科学ph.D) 平安時代の成人儀礼において髪形と服装が改められることに着目し、童装束(童男の童束帯・童直衣および童女の汗衫)に大人と子どもを分ける象徴的意味が担わされていたと考え、実態や特性、表現の検討を通して、平安時代の子どものような存在とみなされたか考察した。大人と童・男と女の立場が明確になるにつれて王朝服飾の成立やその後の展開が決定されていく様相を明らかにした。
3 学術論文				
1.「服飾からみる平安時代のわらはの姿—童女の汗衫(かざみ)とその表現を中心に—」(査読付)	単	2005年3月	『服飾美学』41号	10~12世紀の童女の汗衫について、文献資料と絵画資料を用いて、形状や特性、服飾構成を明らかにし、王朝文学とりわけ『枕草子』における童女の汗衫にみられる特徴的表現「ほころぶ」「乱れ着る」に着目し、汗衫特有の美的感覚をみた。
2.「平安時代の童の束帯—元服・読書始・童殿上を中心に—」(査読付)	単	2007年9月	『服飾美学』45号	10~12世紀の童束帯について、古記録における元服・読書始・童殿上記事を抽出し、整理分析した結果、元服に童皇太子は公的な黄丹色袍を、童親王は赤色袍、殿上童は青色袍を用いており、身分により袍色が異なることを明らかにした。
3.「平安時代における童の直衣の実態—袴着・元服を中心に—」	単	2010年11月	『鹿島美術研究』年報27号	11~12世紀の童直衣について、古記録における袴着や元服記事を抽出し、整理分析した結果、童の立場により服装が変化することが明らかとなった。また、童直衣に天皇の直衣の小篆文が用いられることについて指摘した。
4.「源氏物語の住文化とその受容史に関する研究—理想の住空間としての建築・しつらい・作庭—」	共	2011年3月	『住宅総合研究財団研究論文集』37号	赤澤真理・森田直美・伊永陽子 江戸時代後期の有職家・松岡行義の考証において服飾関連のものをピックアップし、方法論や価値観について、『源語図抄』『源語類聚抄』『後松日記』を用いて検討した。
5.「宮内庁書陵部蔵『源語図抄』翻刻」	共	2011年11月	日本女子大学『瞿麦』26号	赤澤真理・森田直美・伊永陽子 江戸時代後期の有職家・松岡行義著『源語図抄』翻刻
6.「宮内庁書陵部蔵『源語類聚抄』(一)桐壺 翻刻・外題」	共	2015年7月	同志社女子大学『総合文化研究所紀要』32号	赤澤真理・森田直美・伊永陽子 江戸時代後期の有職家・松岡行義著『源語図抄』に続く同著『源語類聚抄』翻刻
7.「宮内庁書陵部蔵『源語類聚抄』(二)箒木 翻刻・外題」	共	2016年7月	同志社女子大学『総合文化研究所紀要』33号	赤澤真理・森田直美・伊永陽子 江戸時代後期の有職家・松岡行義著『源語類聚抄』(一)桐壺に続く(二)箒木の翻刻
8.「寝殿造における遊興空間と装束による演出—藤原頼通期から院政期まで—」	共	2019年3月	『平泉文化研究年報』19号	赤澤真理・森田直美・伊永陽子「3. 11世紀から12世紀における服飾の変遷と空間演出」(pp.67-71) 11世紀に行われた頼通水閣歌合と皇后宮寛子春秋歌合における服飾、さらに院政期の女性服飾の傾向について検討し、平泉中尊寺の染織資料について一私見を述べた。
9.「王朝服飾としての童女の汗衫の成立過程—歌合と『宇津保物語』を資料に—」(査読付)	単	2020年3月	『服飾美学』第66号	平安朝服飾の童女の汗衫について、10世紀の過渡期の様相を記した歌合と『宇津保物語』を主な資料とし、その成立過程を色彩と服飾構成に着目して実証的に検討した。結果、宮廷社会において平安朝服飾がどのように形成されていくかについても言及した。
10.平安時代の歌合における服飾の展開—十世紀から十一世紀半ばまで—査読有	単	2021年6月10日	『和歌文学研究』第122号	十世紀初の亭子院歌合に始まる左赤色、右青色という歌合における対照的な服色が、和様化して平安朝服飾が十世紀後半に確立されていく中で、色彩を中心にどのように展開するかを十一世紀半ばまでたどり、その背景を捉えた。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
11. 京都府立女子専門学校旧蔵「有職人形」の可能性	単	2021年10月	武庫川女子附属総合ミュージアム秋季展図録『王朝文化へのまなごしー戦前期女子教育におけるー』	京都府立女子専門学校旧蔵「有職人形」7体について、その伝来や特徴を述べ、「有職人形」の教育における目的や製作意図、他学蔵の「有職人形」との比較分析などを報告した。
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. 「服飾からみる平安時代の子どもの姿ー童女の汗衫(かざみ)を中心にしてー」	単	2004年5月	服飾美学会	10～12世紀の童女の汗衫について、文献資料と絵画資料を用いて、形状や特性、服飾構成を明らかにし、王朝文学とりわけ『枕草子』における童女の汗衫にみられる特徴的表現「ほころぶ」「乱れ着る」に着目し、汗衫特有の美的感覚をみた。
2. 「服飾からみる平安時代のわらはの姿(二)ー赤色袍の視点からー」	単	2006年5月	服飾美学会	平安時代の童装束に関する研究第二弾。童男の童束帯について古記録から用例を抽出すると、赤色袍と青色袍が多く挙げられ、特に赤色袍は12世紀に殿上童の赤色袍へと認識されていくことを指摘した。
3. 「皇后宮寛子春秋歌合の空間演出ー建築・装束・調度品の復原ー」	共	2018年12月	和歌文学会	赤澤真理・森田直美・伊永陽子 10～11世紀半までの歌合における服飾の変遷を検討し、皇后宮寛子春秋歌合における服飾について文献資料をもとに分析考察し、CG画像によって復原した。
4. 「童女の汗衫(かざみ)の成立に関する一考察ー歌合資料と『宇津保物語』の記述からー」	単	2019年10月	服飾美学会	平安朝服飾の童女の汗衫について、10世紀の過渡期の様相を記した歌合と『宇津保物語』を主な資料とし、その成立過程を色彩と服飾構成に着目して実証的に検討した。
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
1. 展覧会「〔春季展〕琳派“四季のきょうえん”」	共	2007年4月～6月	畠山記念館	展示解説、講演会運営
2. 展覧会「〔夏季展〕染付・呉須・祥瑞ー青と白のやきもの」	共	2007年8月～9月	畠山記念館	展示企画運営、展示解説
3. 展覧会「〔秋季展〕茶の湯の美ー利休から宗旦へ」	共	2007年10月～12月	畠山記念館	展示企画運営、講演会・友の会茶会運営
4. 展覧会「〔冬季展〕花によせる日本の心ー梅・桜・椿を中心に」	共	2008年1月3月	畠山記念館	展示企画運営、展示解説
5. 展覧会「〔春季展〕細川井戸と名物茶道具ー天下三井戸とよばれた茶碗」	共	2008年4月～6月	畠山記念館	展示企画運営、講演会・友の会茶会運営
6. 展覧会「〔夏季展〕赤のやきものー金襴手・万暦赤絵・古赤絵・南京赤絵」	共	2008年8月～9月	畠山記念館	展示企画運営、展示解説
7. 展覧会「〔秋季展〕数寄者 益田鈍翁ー心づくしの茶人」	共	2008年10月～12月	畠山記念館	展示企画運営、展示解説、講演会運営
8. 展覧会「〔冬季展〕日本の春ー華やぎと侘び」	共	2009年1月～3月	畠山記念館	展示企画運営、展示解説
9. 展覧会「〔春季展〕開館45周年記念 畠	共	2009年4月～6月	畠山記念館	展示企画運営、講演会運営

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
山記念館名品展「季節の書画と茶道具」 10. 特別展『阪神間モダンライフ』図録	共	2020年2月	武庫川女子大学附属総合ミュージアム編	コラム「嫁入り道具の市松人形にみる格式」（p36）および作品解説「琴油単」（p40）を執筆。
11. 展覧会「Living History 促進事業 王朝文化体感プログラム 特別展 再現！ 姫君の空間—王朝の華やぎと輝きの世界へ—」	共	2021年7月～9月 ※緊急事態宣言により8月27日に終了	会場：齋宮歴史博物館 主催：王朝文化体感プログラム協議会（一般財団法人民族衣裳文化普及協会・三重県・明和町）	王朝文化体感プログラム協議会の検討・企画委員として、御簾の下から装束の一部を出す「打出」に焦点を当て、復元装束を用いその情景を再現展示するとともに、打出や服飾に関する資料展示を通じて、往時の装束の空間演出機能について紹介した。
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. 『〔特別展〕鎌倉円覚寺の名宝—七百二十年の歴史を語る禅の文化—』	共	2006年10月～12月	五島美術館	展覧会図録作成協力者として、校閲編集を行った。
2. 「前近代を中心とした子供の衣服と性差に関する調査・研究」	共	2013年3月	文化ファッション研究機構共同研究成果発表会・総括シンポジウム	土屋貴裕・古川摂一・伊永陽子・菊地理予 子どもの衣服の性差について、絵画資料、文献資料、実物資料それぞれの結論を報告発表をした。
3. 「前近代を中心とした子供の衣服と性差に関する調査・研究—絵画及び染織資料からみた服装形態とその実態をめぐって—」	共	2013年3月	『文部科学省委託 服飾文化共同研究拠点事業報告 文化ファッション研究機構 共同研究番号22003「前近代を中心とした子供の衣服と性差に関する調査・研究—絵画及び染織資料からみた服装形態とその実態をめぐって—」2010～2012年報告書』	土屋貴裕・古川摂一・伊永陽子・菊地理予「2. 文献資料における子供の服飾に関する記述の抽出と検討」（pp11-24）、「『群書類従〈装束部〉』所収故実書に記された子供の服飾関連記事」（pp49-73）平安末期から中世にかけての故実書における子供の服飾関連の記述を抽出し、一覧表とした。主な対象の服飾の束帯、直衣、狩衣、浄衣、水干、半尻、長絹、細長、汗衫を検討し、男女の服飾の性差は袴着以降見られるとの結論を得た。
4. 「寝殿造における遊興空間と装束による演出—藤原頼通期から院政期まで—」発表	共	2019年2月	第19回平泉文化フォーラム	赤澤真理・森田直美・伊永陽子 11世紀に行われた頼通水閣歌合と皇后宮寛子春秋歌合における服飾による空間演出について、文献資料をもとに考察し、CG映像として復元した。
5. 「平安朝服飾の成立と変容」発表	単	2019年12月	建築におけるオリジナルの価値に関する〔若手奨励〕特別研究委員会（日本建築学会）	平安中期における唐風建築から寝殿造のような和風建築に儀式的場が転じていくことと服飾の和様化がどのように関わるのか、服飾史の観点から発表した。
6. コラム「平安朝服飾の成立と変容—建築との関連性から—」	単	2020年3月	『2018～2019年日本建築学会若手奨励特別研究委員会「建築におけるオリジナルの価値」報告書』	平安時代を通して、唐風建築から寝殿造のような和風建築に儀式的場が転じていくことと服飾の和様化がどのように関わるのか、問題点と展望を述べた。
7. 旧制女子教育機関所蔵「有職人形」を中核とした近代女子教育と皇室文化の研究	単	2020年11月25日	武庫川女子大学附属総合ミュージアム第1回研究交流会	旧制女子教育機関に所蔵されると思われる教育標本の「有職人形」について、武庫川女子大学附属総合ミュージアム蔵「有職人形」7体の調査と新しく見出された大阪府立大学蔵「有職人形」2体の調査と分析を報告した。
8. 特別展『阪神間モダンライフ』図録	共	2021年2月	武庫川女子大学附属総合ミュージアム編	コラム「嫁入り道具の市松人形にみる格式」（p36）および作品解説「琴油単」（p40）の執筆。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
9. 『Living History 促進事業 王朝文化体感プログラム 特別展 再現！姫君の空間—王朝の華やぎと輝きの世界へ—』	共	2021年7月	斎宮歴史博物館	展覧会「Living History 促進事業 王朝文化体感プログラム 特別展 再現！姫君の空間—王朝の華やぎと輝きの世界へ—」のため作成したリーフレット。作品解説、復元装束のみどころ、図解などの執筆担当。
6. 研究費の取得状況				
1. 研究テーマ「源氏物語の住文化とその受容史に関する研究」	共	2009年～2011年	住総研研究助成	研究分担者
2. 研究テーマ「平安時代における童の直衣の実態—袴着・元服を中心に—」	単	2009年	財団法人鹿島美術財団「美術に関する調査研究」助成	
3. 研究テーマ「前近代を中心とした子供の衣服と性差に関する調査・研究—絵画及び染織資料からみた服装形態とその実態をめぐって—」（共同研究番号22003）	共	2010年～2012年	文部科学省委託服飾文化共同研究拠点事業 文化ファッション研究機構研究助成	研究分担者
4. 研究テーマ「王朝における歌合空間の復元—色彩・装束・調度・水辺が織り成す世界観の解明—」	共	2018年	公益財団法人大林財団研究助成	研究分担者
5. 伊勢物語絵研究会編『住吉如慶筆 伊勢物語絵巻』（思文閣出版、2019年）出版助成	共	2018年	出光福祉文化財団平成30年度出版助成	研究代表者河田昌之
6. 旧制女子教育機関所蔵「有職人形」を中核とした近代女子教育と皇室文化の研究	単	2021年4月～現在	科研費 基盤研究（）	代表研究者
学会及び社会における活動等				
年月日		事項		